

令和4年度『コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進』

に係る文部科学大臣表彰 受賞の報告会について

●概 要

コミュニティ・スクールと地域学校協働の一体的実施により、学校運営の改善・強化のみならず、学校を核とした地域づくりにも効果を上げている取組のうち、他の模範として認められるものに対して表彰される「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る文部科学大臣表彰」を「豊川地区学校運営協議会／とよかわ未来をつくる会」が受賞し、2月3日（金）に文部科学省（東京千代田区）で表彰式が開催されます。

その受賞の報告を「豊川地区学校運営協議会／とよかわの未来をつくる会」のメンバーが市長に行います。

●日 時 令和5年2月6日 9：30～9：45

●場 所 益田市役所 市長室

●参加者 豊川地区学校運営協議会 及び とよかわの未来をつくる会 の5名
(代表者 豊川地区学校運営協議会会長 河野利文 様)

●取材について

報告会について、取材をしていただける場合は、2月3日（金）17時までに担当者まで連絡をいただきますようお願いいたします。（メールで構いません。様式自由）

当日は時間までに市長室前にお越しください。

学校内外の学びの充実 ～子どもたちが楽しく主体的に学ぶ場を創造し活用する取組～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
益田市立 豊川小学校	豊川地区学校運営協議会 平成27年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 1名	とよかわの未来をつくる会

取組の背景及び目標や目指す姿

背景
本校は、昭和61年までは分校が設置される程、児童の人数が多かった。しかし、児童数が急激に減少していく中で、次第に学校や子どもと、地域とのかかわりが希薄化していった。また、既存のボランティア団体等も高齢化しつつあり、「今」に困り感はないが、将来持続可能な地域づくりの観点からも、次の地域の担い手を育成する必要性が迫られていた。また、小学校は、公民館、保育所に隣接しており、小学校を地域の拠点にすることで、多様な世代が関わる可能性をもつ位置に立地していた。

目標や目指す姿(学校)
豊かななかかわりの中で、ともに伸びゆく子どもの育成

目標や目指す姿(地域)
子どもを校としたひととやり、住民自ら楽しく持続可能な地域をつくる

豊川地区学校運営協議会の特徴

委員の立場や属性等	
<input type="checkbox"/> 地域コーディネーター	<input type="checkbox"/> 地域自治組織関係者
<input type="checkbox"/> 保護者・PTCA関係者	<input type="checkbox"/> 校長
<input type="checkbox"/> 保育関係者	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 公民館関係者	など、計 8名で構成
<input type="checkbox"/> 学識経験者	年間平均 4回程度開催

効果的な運営の工夫
学校運営協議会の協議が実りあるものになるため、頻繁に会長や社会教育コーディネーターと校長がミーティングを重ねることで、真に協議すべき議題の選定や議論の柱の整理を行っている。また、学校運営協議会の委員は、日ごろから学校を訪問したり、地域学校協働活動の中で子どもとのかかわりをもっていたりすることで、子どもの実態と成長を理解している。加えて、ほぼすべての委員が、とよかわの未来をつくる会ともかかわりをもっているため、地域での子ども様子や学校への要望もすぐに共有できる体制となっている。

特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

子どもの学びを教職員も地域の方も同じ視点でみとめるためのシート(MASPORT)や、授業における地域との協働を提案した。また、授業の研究協議を地域の方も含めて行う提案も行った。その上で、学校運営協議会委員の意見も踏まえ、総合的な学習の時間を核にしたカリキュラムを学校で作成した。

学校運営協議会の様子

地域学校協働活動

「まちづくり」をテーマにした総合的な学習の時間では、地域の方が質問や助言するだけでなく、児童が作成したまちづくりプランの実現を一緒に行った。地域学校協働活動により主体的に取り組む児童が増えただけでなく、楽しみながら参加する大人も増えていった。

地域の方との対話の様子

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

〔学校と地域が目指す子ども像を共有〕
地域と協働で授業を行う際にMASPORTを活用し、目指す子ども像を共有した。また、授業に関わる協議に地域の方も参加することで、地域の力をカリキュラム・マネジメントにも活かした。

〔取組内容の共有・促進〕
学校運営協議会で協議された内容を、とよかわの未来をつくる会の中で必ず共有することで、地域学校協働活動を企画する際も、その内容を意識できるようにした。

成果・効果

〔指標1〕全国学力・学習状況調査(意識調査)

	自分にはよいところがある[肯定的評価]	友達に伝えたいことを伝えていける[肯定的評価]	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる[肯定的評価]
H26	61%	68%	17%
R3	86%	86%	86%

〔指標2〕R3 全国学力・学習状況調査(国語)
国語平均正答率68%(全国平均正答率より+4ポイント)

〔学校や参画する地域住民等の声〕
地域の方と一緒に、授業のねらいや児童の想いを事前に共有し、活動後にもふり返りをする時間を大切にしたら結果、より児童の実態に即した授業を展開することができた。地域の方との関わりが、児童の「やりたい」という気持ちをどんどん高めた。(教員)
児童の成長を地域の方も一緒に感じることで嬉しかった。地域での会議や自治組織の活動に、子どもたちの声や姿が見えることで、大人も子どもも地域の一員として前向きに活動していく様子が見られた。(公民館関係者)

◇児童が主体的に学ぶ場をもち、地域の一員である意識も高まった。また、総合的な学習の時間にもつながった。
◇学校カリキュラム・マネジメントを地域の方と共有し、地域の中での学校という意識が、地域にも広まった。
◇地域や、関係する地域住民、地域学校協働活動への関わりを通して、自ら「楽しむ」意識が生まれ、地域活動も盛んになった。